

学校 教育 目標	「友達が好き 自分が好き たくましく伸びる 権太坂の子」			
	1. 相手と関わりながら相手の気持ちや考えを受け入れ、協力してとりくむ姿をめざします。 2. 相手との関わりを通して、自分のことを理解し、思いや願いをもって、生き生きと活動する姿をめざします。 3. 自分から進んで考え、行動し、最後までやりとげる姿をめざします。			
学校 概要	創立 48 周年	学校長 佐々木 和美	副校長 加藤 義治	2 学期制 一般学級： 12 個別支援学級： 4
	児童生徒数： 339 人	主な関係校： 境木中学校、境木小学校		

教育課程全体で 育成を目指す資質・能力	境木中 ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
<自分づくりに関する能力>	境木中学校 権太坂小学校 境木小学校	人とのかかわりを通して、主体的に考え、課題解決しようとする子ども ・「学習における対話的活動の充実と学習意識の変容について」をブロック授業 研のテーマとして設定し、テーマを意識した授業を展開します。 ・小中ブロックで共同でカリキュラムの運営改善を行います。 ・合同授業研究会を通して、授業改善や授業力向上の実践と推進を図ります。 ・小中ブロックで共同して引取り訓練を行います。

中期 取組 目標	○子どもの主体性を大切にしながら、地域と連携し、子どもとしっかり向き合い、活気ある学校にします。 ・教育の基盤を児童理解におき、一人ひとりが居場所をもって生活できる風土をつくります。 ・主体的・対話的な授業づくりを推進し、基礎・基本を確実に身につけ、学力の向上を図ります。 ・地域の材を活用し、主体的に課題を見つけ、試行錯誤して課題を解決する力を育てます。 ・家庭や地域、関連機関、近隣の教育機関との連携を深め、教育活動を発信し、地域の一員としての子どもを育てていきます。 ・教職員一人ひとりが教職員としての自覚をもち、自己研鑽に励み、チーム力の向上を図ります。 ・子ども一人ひとりとしっかり向き合うための体制をつくるために、業務改善に取り組みます。
----------------	---

重点取組分野		具体的取組
知	生きてはたらく知	数学的な見方・考え方を働かせて問題解決を図る児童の育成を目指し、児童が自ら問いをもち、主体的に取り組む数学的活動の在り方を研究していきます。その実現に向け、以下の三点を全校共通の取組として推進します。①毎週金曜日の朝学習を「朝算タイム」と位置付け、数に親しみ、考える習慣を育てます。②数学的な見方・考え方を九つの思考の視点として整理し、児童が授業の中で楽しみながらそれらを見だし、活用できるようにしていきます。③単元構成では、領域の系統性を意識し、既習を生かした学習展開を図っていきます。
担当	学力向上部	
徳	豊かな心	【一人ひとりが居場所をもって生活できる学校・学級をつくります】①ブロック学年、児童支援部を中心に全校集会、全校遠足といった縦割り活動を行います。②道徳の授業と日常生活がつながり、生活にいかせるようにします。③各教科・領域の学習を通して、「分かる」「できる」を目指し、互いを認め合う学級風土をつくります。
担当	児童支援部	
体	健やかな体	【心身ともに健康的な生活習慣を身につけ、健やかな心と体を育みます】①体力向上のために、縄跳びを中心とした体力づくりを継続的に取り組みます。②年1回の学校保健委員会で生活習慣や健康に関するテーマについて取り上げ、日常的に取り組みます。③食育推進委員会により、食育の年間指導計画を明確にして、食を考える機会を増やす。
担当	体育部	
公開	地域連携 学校運営協議会	【地域と連携しながら、地域の一員としての子どもを育てていきます】①地域の「人、もの、こと」と関わりあいながら、授業づくりを行います。②学校運営協議会を中心として、地域の意見を取り入れながら、より充実した教育活動を行います。③学校だよりやホームページ等を活用して、学校での取組を地域に広く発信します。
担当	教務部	
	児童理解	【家庭などと連携を図りながら、児童理解をします】①家庭訪問、個人面談、懇談会などで、児童の様子や情報を交流しながら、児童・保護者の思いや願いを聞き取り、実際の指導に生かします。②多様な児童に対応するために児童理解に関する研修等を行います。
担当	児童支援部	
	いじめへの対応	【いじめが少なくなる風土を作りながら、いじめに対して組織的に、適切に対応します。】①コミュニケーション力の向上を図り、相手のことを思いやる言動を取れるようにし、いじめが少なくなる風土を作っていきます。②いじめ防止基本方針をもとに、日頃の児童の見取りや面談、いじめアンケート、月1回のいじめ防止定例会議などを通して、組織的にかつ適切にいじめに対して対応していきます。
担当	児童支援部	
	特別支援教育	【一人ひとりの実態や特性に合わせた特別支援体制を整えます】①特別支援コーディネーターや児童支援専任が窓口となり、スクールカウンセラーと保護者をつなぎ、児童や保護者の困り感を軽減していけるようにします。②担任だけでなく、関係職員と情報共有を図り、職員全体で連携して支援していきます。③センター的機能や通級の巡回訪問などの機能を活用し、他機関とも連携していきます。④特別支援教室を活用していきます。
担当	児童支援部	
	人権教育	【自他のよさを見出す子どもを育てます】①地域や社会と関わる体験を通して、様々な人がいることを学ぶ機会を増やします。②たてわり活動を通して、子どもたちが互いを思いやる気持ちを育てます。③教職員の人権研修を行い、人権感覚を高めていきます。
担当	児童支援部	
	安全管理 安全教育	【安全管理体制を整えるとともに、子ども一人ひとりが安全に行動できるようにします】①実際の災害に生かせるよう、実践的かつ臨機応変な対応が必要な避難訓練を行うとともに、毎回の避難訓練を検証し、次回の避難訓練に生かします。②各学年の発達段階に応じた安全教育を行います。③警察や消防など、他機関とも連携し、教職員の安全研修を充実させます。
担当	安全部	
	人材育成 組織運営	【教職員一人ひとりが教職員としての自覚をもち、自己研鑽に励みます。教職員が子どもと向き合う時間を確保するために業務の効率化を図ります】①学年内で情報共有の時間をとり、様々な課題に対して学年や学校内で組織的に対応します。②メンターチームや重点研究を中心とした人材育成を計画的に進めます。③今までの業務を見直し、子どもと向き合う時間を増やします。
担当	教務部	

中期取組目標実現に向けた「三つのプラン」

学校教育目標

「友達が好き 自分が好き たくましく伸びる 権太坂の子」

1. 相手と関わりながら相手の気持ちや考えを受け入れ、協力してとりくむ姿をめざします。
2. 相手との関わりを通して、自分のことを理解し、思いや願いをもって、生き生きと活動する姿をめざします。
3. 自分から進んで考え、行動し、最後までやりとげる姿をめざします。

教育課程全体で
育成を目指す資質・能力

具体化した資質・能力

<自分づくりに関する能力>

- 相手意識、目的意識をもち、自分の思いや考えを表現する力
- 他者とのかかわりの中で、自己の成長や生き方について考える力
- 本物の芸術や専門的な知識・技能にふれることで高まる豊かな感性

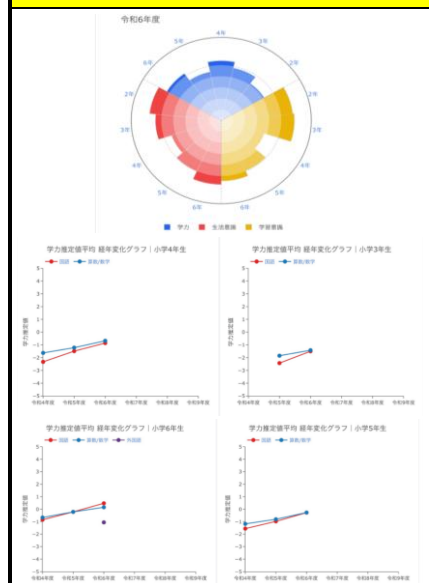
中期取組目標

- 子どもの主体性を大切にしながら、地域と連携し、子どもとしっかり向き合い、活気ある学校にします。
- ・教育の基盤を児童理解におき、一人ひとりが居場所をもって生活できる風土をつくります。
- ・主体的・対話的な授業づくりを推進し、基礎・基本を確実に身に付け、学力の向上を図ります。
- ・地域の材を活用し、主体的に課題を見つけ、試行錯誤して課題を解決する力を育てます。
- ・家庭や地域、関連機関、近隣の教育機関との連携を深め、教育活動を発信し、地域の一員としての子どもを育てていきます。
- ・教職員一人ひとりが教職員としての自覚をもち、自己研鑽に励み、チーム力の向上を図ります。
- ・子ども一人ひとりとしっかり向き合うための体制をつくるために、業務改善に取り組みます。

学力向上アクションプラン

重点取組分野	具体的取組
生きてはたらく知	数学的な見方・考え方を働かせて問題解決を図る児童の育成を目指し、児童が自ら問いをもち、主体的に取り組む数学的活動の在り方を研究していきます。その実現に向け、以下の三点を全校共通の取組として推進します。①毎週金曜日の朝学習を「朝算タイム」と位置付け、数に親しみ、考える習慣を育てます。②数学的な見方・考え方を九つの思考の視点として整理し、児童が授業の中で楽しみながらそれらを見だし、活用できるようにしていきます。③単元構成では、領域の系統性を意識し、既習を生かした学習展開を図っていきます。
担当	学力向上部

学力向上に関わる本校の状況



今年度の目標

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

下半期

豊かな心の育成推進プラン

重点取組分野	具体的取組
豊かな心	【一人ひとりが居場所をもって生活できる学校・学級をつくります】①ブロック学年、児童支援部を中心に全校集会、全校遠足といった縦割り活動を行います。②道徳の授業と日常生活がつながり、生活にいかせるようにします。③各教科・領域の学習を通して、「分かる」「できる」を目指し、互いを認め合う学級風土をつくります。
担当	児童支援部

豊かな心に関わる本校の状況

本校の児童は、全体的に素直で活発な児童が多く、中休みになると、元気に外遊びをする児童が多く見られる。たてわり活動では、全校遠足やなかよし活動等、学年の垣根を越えて交流する機会を設けており、一人ひとりが居場所をもって生活できる環境整備、教育活動の充実を図ってきた。全校遠足やなかよし活動を実施して、異学年や様々な仲間と関わることで、自他のよさに気づき、有用感をもったり、自分から相手に関わろうとしたりする姿が見られる。高学年は低学年を世話したり、優しく教えたりする姿が、低学年や中学年は互いに声をかけ合ったり、協力し合ったりする姿が見られ、学年の垣根を超えた交流活動を通して、豊かな心の成長につながっている。

また、特別支援教室の運営では、特別支援が必要な児童の個別指導の充実を図ってきた。支援が必要な児童の取り出しを行い、学習支援を柱として、担当教諭と担任との共通理解を図りながら、支援を進めた。担任の児童理解が進み、学習面での課題を担任が把握した上で、担当教諭につなげ、より有効な支援を行うことで、一人ひとりのつまずきに特化した個別指導を行うことが可能となり、子ども自身が「できる」を実感でき、自信につながっている。また、安心な雰囲気づくりを心がけたり、担任の他にも理解してくれている先生がいるという安心感ももたことにより、児童が分からないときに即座に「分からない」と言えることが多くなり、学習理解につながっている。

本校の児童は、自尊感情や自己有用感に課題が見られる。授業では、自分の意見や考えに自信がもてず、周りの目を気にしたり、失敗を恐れてしまったりする傾向が見られる。学校教育目標にある「自分が好き」とは、自分の思いや願いをもち、一人ひとりが居場所をもって、生き生きと活動する姿を目指している。

今年度の目標

目標を実現するための具体的行動プラン

上半期

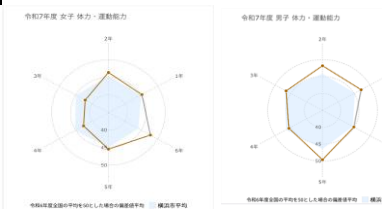
下半期

健やかな体の育成プラン

重点取組分野	具体的取組
健やかな体	【心身ともに健康的な生活習慣を身につけ、健やかな心と体を育みます】①体力向上のために、縄跳びを中心とした体力づくりを継続的に取り組めます。②年1回の学校保健委員会で生活習慣や健康に関するテーマについて取り上げ、日常的に取り組めます。③食育推進員会により、食育の年間指導計画を明確にして、食を考える機会を増やす。
担当	体育部

健やかな体に関わる本校の状況

運動能力において本校の児童と横浜市の平均値を比較すると男女共に中学年が平均値より下回っていることがわかる。中学年は低学年の「〇〇の運動遊び」から「〇〇運動」へ転換する。運動遊びの中でも、基本的な動きを身に付け、各領域の特性に応じた指導を全校で行っていききたい。



食に関する児童の実態として、食の重要性は認識しているが、小食・偏食・好き嫌いなどの食の課題がある。特に、副菜の給食残食率が9.3%と、野菜に対する苦手意識が見られる。そのため、食育の年間指導計画を明確にして、各学年の食育を充実させるとともに、全校で年7回のバランスイーターネットワークの取組を行い、食を考える機会を増やしていく。

今年度の目標

上半期

下半期